業務棚卸表（事後評価表）

A表

年度	平成18年度

基本目的 9　行政機能が高くなる

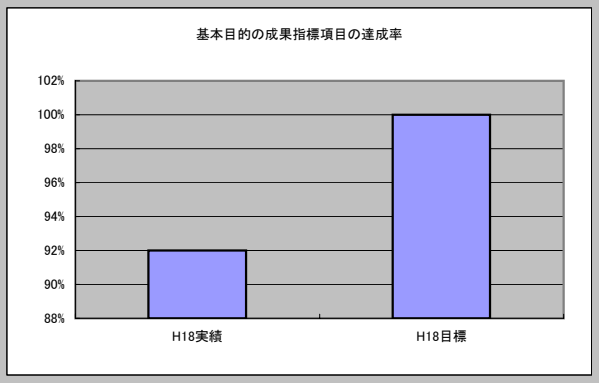
行動目標 9－1　社会ニーズに対応した行政運営を行う　（所管課名　経営企画部政策課）

任務目的	市民ニーズや社会経済状況に対応した市全体の施策の組み立てを行う	達成度	☆☆☆

任務目的の成果・活動指標の推移

基本目的の成果指標項目の達成率

H15実績	―
H16実績	―
H17実績	90%
H18実績	92%
H18目標	100%



指標の説明

行政経営戦略プランに掲げている9つの基本目的毎の指標（32項目）が、平成平成18年度末時点で、全て達成されていることを目標としている。

○ 任務目的に対する評価

これまでの取組と成果、手段の妥当性

平成18年度実績

○平成19年から21年度を計画期間とする第2次行政経営戦略プランについて、第1次戦略プランの中間評価を踏まえ、パブリックコメントによる市民の意見の把握や、各季節毎のレビュー、政策推進監を中心とする庁内論議を進め、プランの策定を行った。
○新戦略プランの策定に当たり、各施策に数値目標や、目的指向の行政運営を図ることができるよう政策推進監を中心に数値目標の改善に取り組んだ。
○成果指標として、行政経営戦略プランの9つの基本目的毎の指標の達成率を100％としていたが、目標に達することができなかった。

平成19年度見通し

○現在の総合計画の計画期間は、平成22年度までであり、戦略プランの最終年度が21年度までである。これらの整合性がとられるような次期の総合計画の策定に向けた準備にとりかかかり、中核市移行を踏まえた新たな市政運営の方針づくりを行う。
○現行の戦略プランの課題を踏まえ、より適切な目標設定、プランの実行性を高めるとともに、市民ニーズに適切対応できるプランの仕組みなどを検討し、プランの改善に取り組む。

これからの課題、施策等展開の方向性

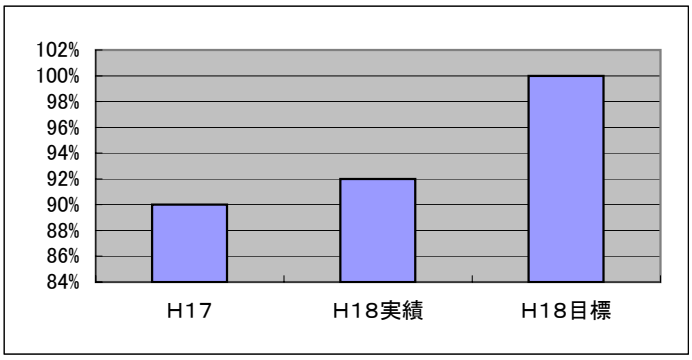
○限られた予算や人材などの経営資源を有効に活用すべく、引き続き、選択と集中による施策の重点化に努める。
○今後も成果志向、目標重視の行財政運営を推進するとともに、第2次戦略プランの各年度の評価に対するローリングや予算決算への反映をどのようにするか等その評価システムの手法の検討する。

業務棚卸表（事後評価表）

B表

年度	平成18年度

目的達成に必要な手段		指標	年度	実績／目標	達成度
1	政策の目標管理を行う	基本目的の成果指標項目の達成率	H15実績	－	☆☆☆
			H16実績	－	
			H17実績	90%	
			H18実績	92%	
			H18目標	100%	



基本的な手段に対する評価

平成18年度実績

○平成19～21年度を計画期間とする次期戦略プランについて、パブリックコメントの実施、各季節毎のレビュー・政策推進監を中心とする庁内議論を進め、プランを策定した。

○各部局との協議、調整により、基本目的の指標達成にむけて取り組みを行った。

平成19年度見通し

○平成19年度初年度としたプランの着実な推進を図るため、数値目標による執行管理を行うとともに新たな事業のローリング等を実施する。

○現総合計画が平成22年までを計画期間としており、戦略プランの最終年度である21年度までとの整合を図るか

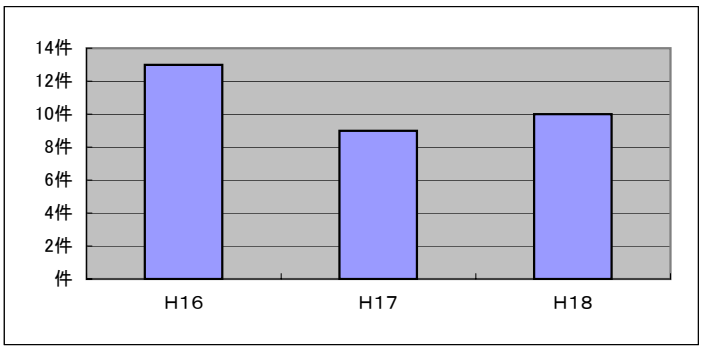
を含め、次期の総合計画の策定の準備を進める。

事業名	H17決算	H18予算	H18決算	決算差引
総合計画推進事業費	3,040	2,646	2,123	△ 917
				0
				0

これからの課題、事業展開の方向性

今後も成果志向・目標重視の行財政運営を推進すべく、政策課題別に指標・目標を設定し、政策を推進する必要があり、引き続き、業務棚卸表を基本ツールとして、政策の目標管理を行う。

目的達成に必要な手段		指標	年度	実績／目標	達成度
2	市政全般にわたる政策課題の解決に向けた活動を行う	検討課題テーマ数	H15実績	－	☆☆☆
			H16実績	13件	
			H17実績	9件	
			H18実績	10件	
			H18目標	10件	



基本的な手段に対する評価

平成18年度実績

○地域医療の充実を図るため、平成19年4月開学の看護医療大学の設立支援を行うとともに、奨学金制度を設け、本市の看護医療の向上に努めた。

○理工系大学の誘致、医療・保健・福祉の連携、食育基本計画等の政策課題について、関係機関との協議、、検討を行った。

平成19年度見通し

○引き続き、理工系大学の誘致、医療・保健・福祉・教育の連携、食育推進基本計画の策定など時代に即応した新たな政策課題について、調査研究、検討を進める予定である。

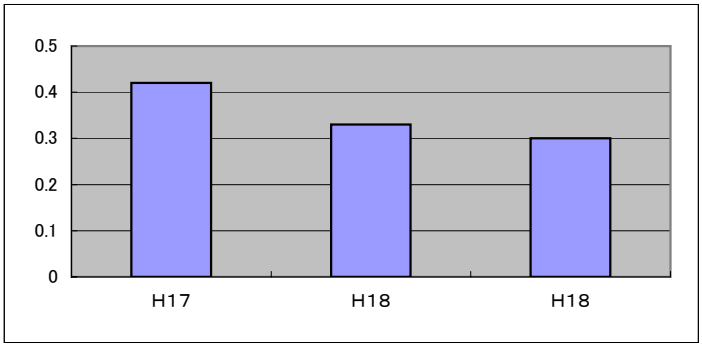
○今年度も新たな政策課題に対応するため、四日市大学地域政策研究所との共同調査を行う。

事業名	H17決算	H18予算	H18決算	決算差引
四日市大学地域政策研究所共同研究事業費	1,800	900	900	△ 900
四日市看護医療大学設立支援事業		400,000	400,000	400,000
四日市看護医療大学奨学制度		15,900	14,310	14,310
食育ネットワーク事業費		0	0	0

これからの課題、事業展開の方向性

今後とも、時代に即応した新たな政策課題について、調査研究・検討を進めていく。

目的達成に必要な手段		指標	年度	実績／目標	達成度
3	土地開発公社の運営健全化と買い戻し土地の有効活用を図る	公社保有土地簿価／標準財政規模	H15実績	－	☆☆☆
			H16実績	－	
			H17実績	0.42	
			H18実績	0.33	
			H18目標	0.3	



基本的な手段に対する評価

平成18年度実績

○土地開発公社の経営健全化について、余剰地の売却など第2次健全化計画を進め、指標の減少に努めるとともに、新保々工業用地等未利用地の処理を進めるため基金を設置し、H19年度の予算化を図った。
○今年度においても、鈴鹿山麓研究学園都市について、適切に維持管理を行い、造成済みの土地の登記業務を進めた。
○桜運動広場についても地元の運営協議会に管理業務を委託し、適切に管理した。

平成19年度見通し

○「経営改善検討委員会」の答申に基づき、新保々工業用地の活用処理に着手する。昨年度設置された「土地開発公社経営健全化基金」の積立を行い、具体的な処理方法を検討する。
○第一勧業銀行跡地、鈴鹿山麓研究学園都市の遊休土地等の有効利用について方法を検討する。

事業名	H17決算	H18予算	H18決算	決算差引
鈴鹿山麓研究学園都市推進事業費	0	0	0	0
鈴鹿山麓研究学園都市管理運営費	2,696	20,070	15,256	12,560
鈴鹿山麓研究学園都市建設事業費負担金	2,407	2,535	2,534	127
鈴鹿山麓研究学園都市建設(1次)事業費負担金	6,997	11,770	11,770	4,773
桜運動広場管理運営費	12,810	4,200	4,200	△ 8,610
地域活性化事業用地取得事業	4,923	5,590	5,119	196

これからの課題、事業展開の方向性

○鈴鹿山麓研究学園都市の維持管理や関連する遊休土地についての処理方法等について検討を進める。
○桜運動広場は、市の公の施設として位置づけ、広く全市民に開放していく方向で検討を進める。

業務棚卸表（事後評価表）

A表

年度	平成18年度

基本目的 4　多くの人が働ける場が増える

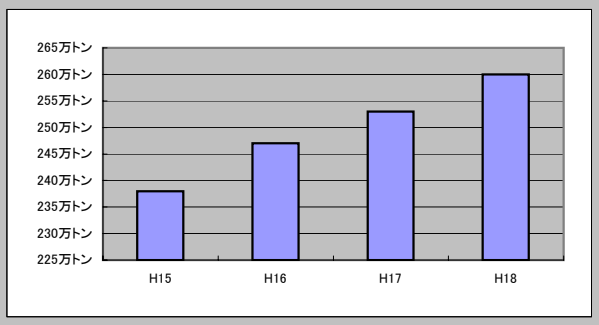
行動目標 4－1　商工業の民間投資が進む　（所管課名　経営企画部政策課）

任務目的	産業構造の高度化を促進する	達成度	☆☆☆

任務目的の成果・活動指標の推移

コンテナ貨物の取り扱い量（暦年）

H15実績	238万トン
H16実績	247万トン
H17実績	253万トン
H18実績	260万トン
H18目標	310万トン



指標の説明

四日市港は国際中枢港湾として整備を進めているが、港湾機能の充実をはかる目安として、コンテナ貨物の取扱量（暦年）を指標とした。

○　任務目的に対する評価

これまでの取組と成果、手段の妥当性

平成18年度実績

○今年度から新たな負担割合に基づき、市民に親しまれる港づくりなど、本市の港湾整備に対する考え方が港湾整備に反映されるよう、四日市港管理組合と協議を行った。
○港湾整備としては、霞ヶ浦北埠頭において国際海上コンテナターミナル背後に今後展開するロジスティックパークの整備に向けた検討を開始し、霞4号幹線の整備促進及び霞大橋の耐震強化の整備促進を図った。
○浜園地区の海上旅客ターミナル開設に伴い、臨時駐車場の増設による利便性の向上、桟橋フェスティバルの実施、オーストラリア記念館を含む霞ヶ浦緑地の環境整備を行い、市民が利用しやすい環境を整備した。

平成19年度見通し

○四日市港の振興を通じ、本市の経済発展を図るため、今後も継続して検討していくとともに、四日市港管理組合と連携し、スーパー中枢港として四日市港の振興に努めていく。
○中部国際空港へのアクセスルートが増える中、利便性の向上を図っていくとともに、浜園海上旅客ターミナル付近の霞ヶ浦緑地を市民が親しみやすく、利用しやすい環境の促進に努める。

これからの課題、施策等展開の方向性

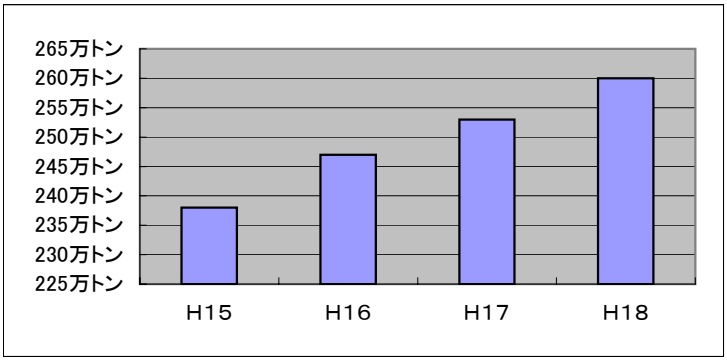
○四日市港について、港湾事業の促進と陳情、諸情報収集を行い、中枢国際港湾としての機能強化を図るとともに、浜園ターミナルをはじめ、市民に親しまれる港湾となるよう関係機関と協議しつつ、整備を図る。

業務棚卸表（事後評価表）

B表

年度	平成18年度

目的達成に必要な手段		指標	年度	実績／目標	達成度
1	四日市港の振興を図る	コンテナ貨物の取り扱い量	H15実績	238万トン	☆☆☆
			H16実績	247万トン	
			H17実績	253万トン	
			H18実績	260万トン	
			H18目標	310万トン	



基本的な手段に対する評価

平成18年度実績

○四日市港の振興を通じ本市経済の発展を図るため、四日市港管理組合と連携し、コンテナターミナル、霞4号幹線など、スーパー中枢港湾としての港湾整備を促進した。

平成19年度見通し

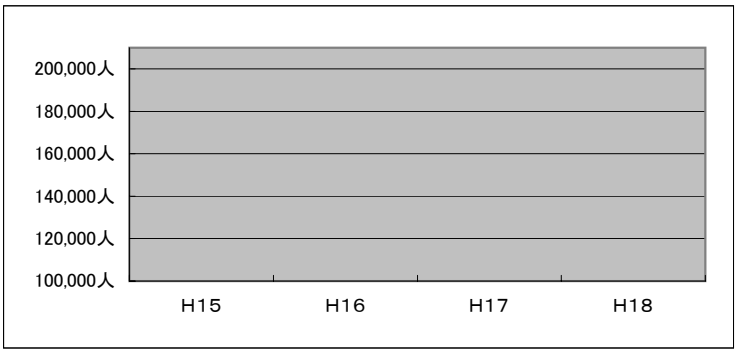
○四日市港管理組合と連携し、コンテナターミナル、霞4号幹線など、スーパー中枢港湾としての港湾整備を促進する。

事業名	H17決算	H18予算	H18決算	決算差引
四日市港管理組合負担金	1,446,964	1,499,235	1,449,234	2,270
三重県港湾海岸協会負担	350	350	350	0
港湾都市協議会等負担金	119	121	119	0

これからの課題、事業展開の方向性

○引き続き、四日市港管理組合と連携し、スーパー中枢港湾としての四日市港の振興を図る。

目的達成に必要な手段		指標	年度	実績／目標	達成度
2	市民に親しまれる港づくりを推進する	海上アクセス利用者数	H15実績	－	☆☆☆
			H16実績	－	
			H17実績	－	
			H18実績	173,598人	
			H18目標	210,000人	



基本的な手段に対する評価

平成18度実績

○市民に親しまれる港づくりを推進するため、中部国際空港への海上アクセスの拠点となる浜園ターミナル内臨時駐車場を増設するなど利用者の利便性の向上に努め、また桟橋フェスティバルなどのイベントを実施した。

○浜園ターミナルやオーストラリア記念館などの集客施設が立地する霞ヶ浦緑地について、総合的な案内パンフレットを作成するとともに、周辺環境整備を進めた。

平成19年度見通し

中部国際空港への海上アクセスが津市、松坂市3ルートになったが、今後も引き続き、その利用者数が増えるような利便性の高い環境整備に努めるとともに、浜園ターミナル等霞ヶ浦緑地利用促進に向けたイベント等を実施するなど親しまれる港づくりを進める。

事業名	H17決算	H18予算	H18決算	決算差引
海上アクセス関連経費	29,999	97,706	97,676	67,677

これからの課題、事業展開の方向性

海上アクセスルートが増える中、利便性の高いアクセスルートとなるように努めるとともに、市民に親しまれる港となるよう新たなイベント等の実施や環境整備に努める。